

共助の輪拡大へ団結誓う

新年の集いで親睦深め

富士宮地区労福協

社要求の実現を通じて労働者家族の生活向上と安定を図り、真に平和で豊かな暮らしを保障する社会を創ることを念頭に活動を続けている。

新型コロナウイルス

来賓として訪れた須藤秀忠市長は「丑（う）

の影響で2年ぶりの開し（つまり、寅（と）催となった同日は、例（れい）ら千里を走るといふ年よりも半数以下に参加人数を減らし、鏡開き（かがみひらき）は中止に。また食料（じきりょう）も控えた縮小した形で行われた。



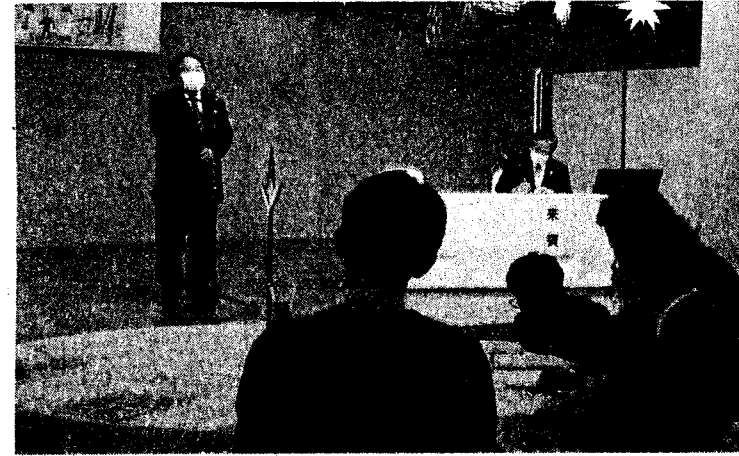
あいさつする小林会長

新型コロナウイルスと共生していく新しい生活様式（しき）が広がったという意味（いみ）で、トラが千里（せんり）を走るように経済（けいぎ）が活性化（かっせいか）し、金融（きんゆう）活動（かっどう）に活気（かっせき）が出てほしいと願（ねが）う」と語（かた）った。また同市（どうし）が市制（しせい）施行（しんこう）80周年（しゅうねん）であることから「記念（きねん）すべき年（ねん）を迎（むか）えられたのは多くの先人（せんじん）たちと働く人（ひと）たちがあってこそ。市民（しみん）こそぞってお祝い（おいわい）し、さ

レクリエーションを楽しむ会員

まざまな事業（じぎょう）を展開（てんげん）したい」と述べた。あいさつで小林（こばやし）会長（かいちょう）は「自分（じぶん）なりに努力（なっりょく）をする自助（じじゆ）も、自分（じぶん）ではどうにもならないときにみんな（みんな）で助け合（たすけあ）う共同（きゆうどう）助（すけ）、それでも問題（もんだい）が解決（かいげつ）できない場合（ばいばい）の公助（こうすけ）。労福協（らうふくぎょう）はこのなかの共助（きゆうすけ）の役目（やくめい）を果た（はたら）している。コロナ禍（コロナ）で不

自由（じゆう）なこともあると思（おも）うが、こういふときこそ団（だん）体（たい）を通じて共助（きゆうすけ）の輪（わ）を広（ひろ）げ、助け合（たすけあ）いながらコロナ（コロナ）に立ち向（むか）かっていきたい」と呼びかけた。イベント内（イベント）内（うち）では、ラケット（ラケット）リレー（リレー）などのゲーム（ゲーム）や抽選（くっせん）会（かい）が行（か）われ、感染（かんせん）症（せい）対策（たいさく）をした中（なか）でも会員（かいぎん）同士（どうし）で親睦（しんぼく）を深（こ）め、今後（こんご）の活動（かっどう）への意欲（いよく）を高（たか）めていた。



富士宮地区労働者福祉協議会（小林純一会長）は14日、富士宮市ひばりが丘の富嶽温泉花の湯で「第25回富士宮地区労福協新年の集い」を開催した。同会に所属する53人が出席し、新年度に向け団結を誓った。同団体は労働者の福